

# 薬物治療学研究室

15号館4階 研究室URL <http://www.rs.noda.tus.ac.jp/aolab/>

教授 青山 隆夫  
助教 河野 洋平



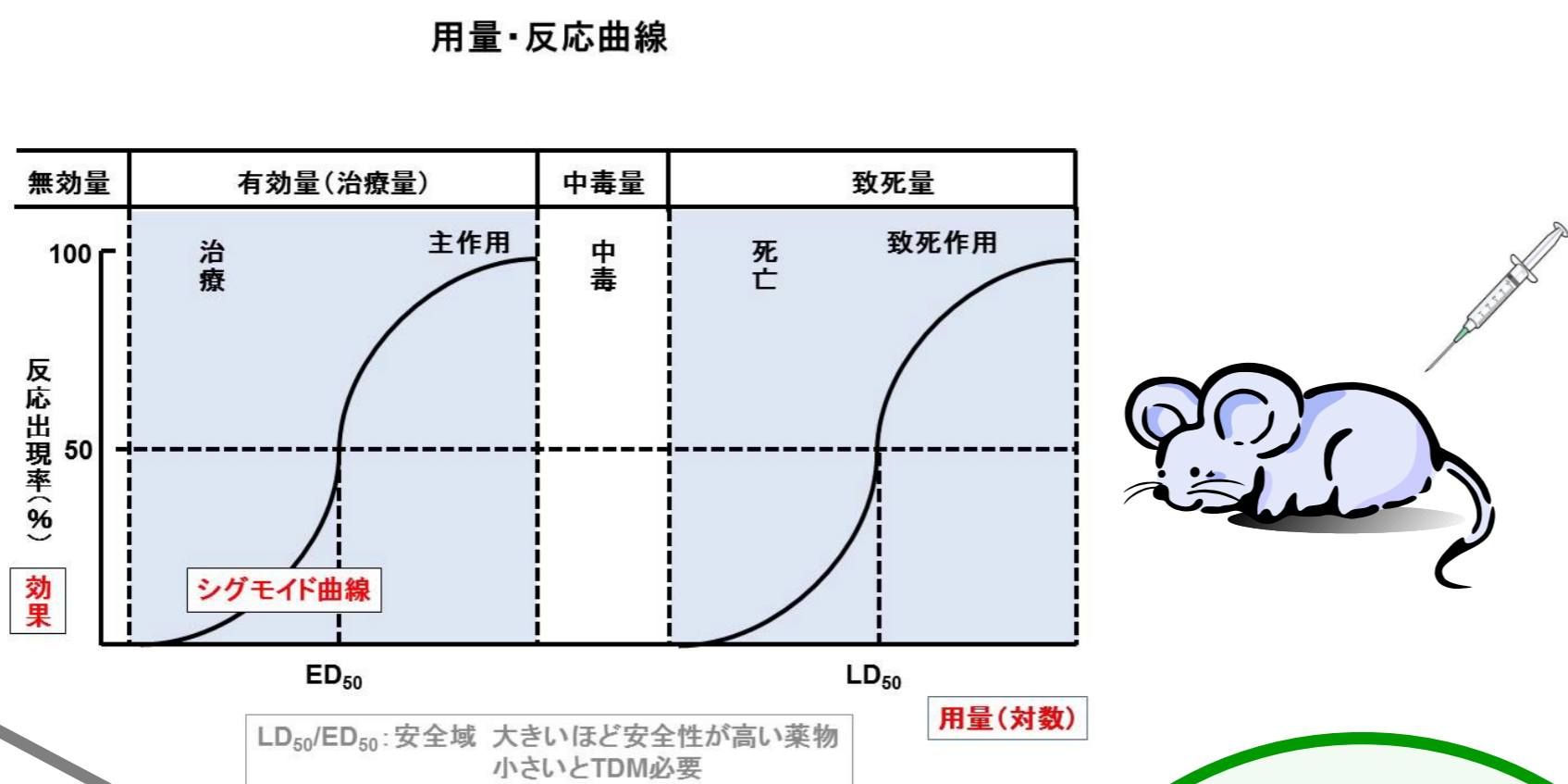
## よりよい薬物治療を目指して

当研究室では、医療現場における薬を使う上での問題点の解決方法や新たな使い方の探索研究を**基礎研究と臨床研究の両方の視点から**行っています。臨床薬学研究の醍醐味は、臨床現場で得た薬物治療における様々な疑問、問題点を追求し、薬物の特性を理解することで、これらがどのように生体に作用するかを明らかにすることです。こうして得られる知見は、新規薬物の創製（創薬）や既存薬の適正使用または応用（育薬）に貢献します。

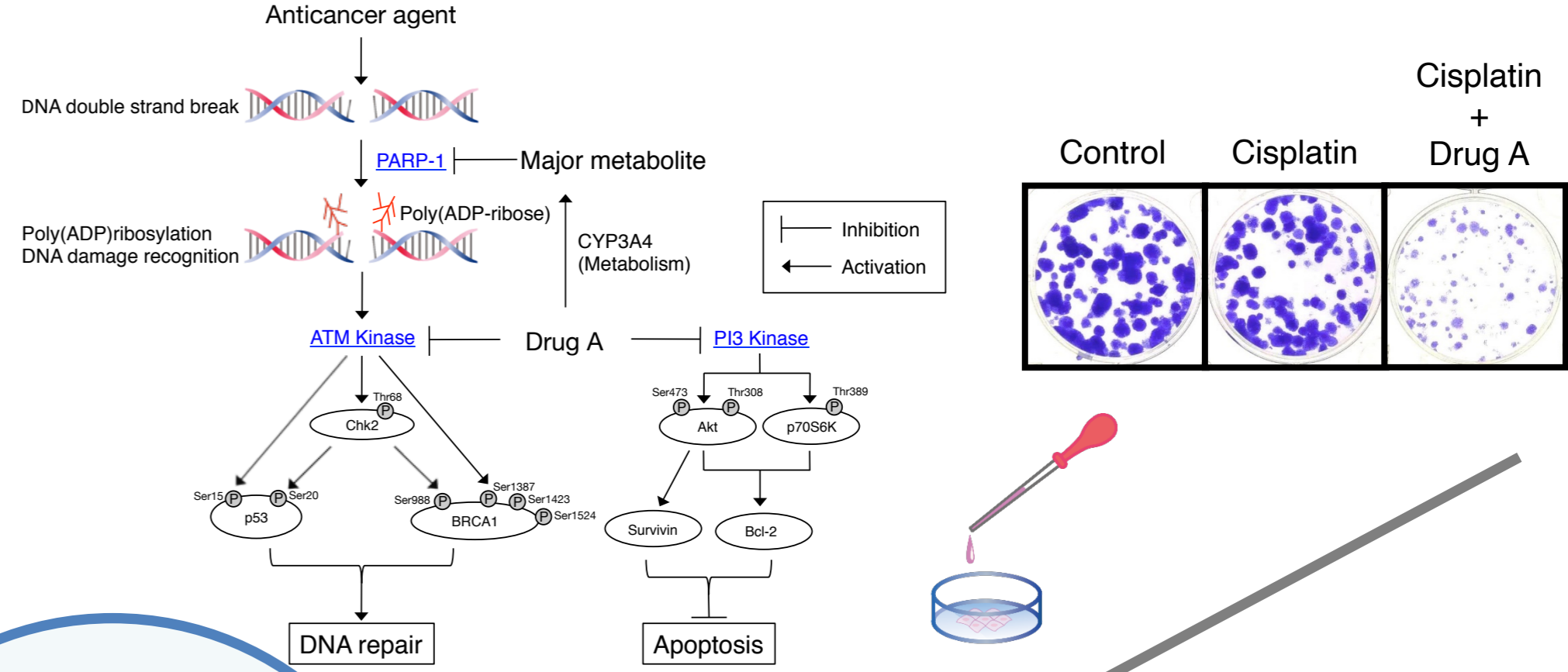
私達は、これまでに得た大学病院での薬剤師としての実務経験と研究経験を生かし、研究指導を通して**臨床と研究の両分野に精通した人材の育成に尽力したい**と考えています。

## 薬物治療上の疑問・問題点を解決するためには幅広い分野での研究が必要！

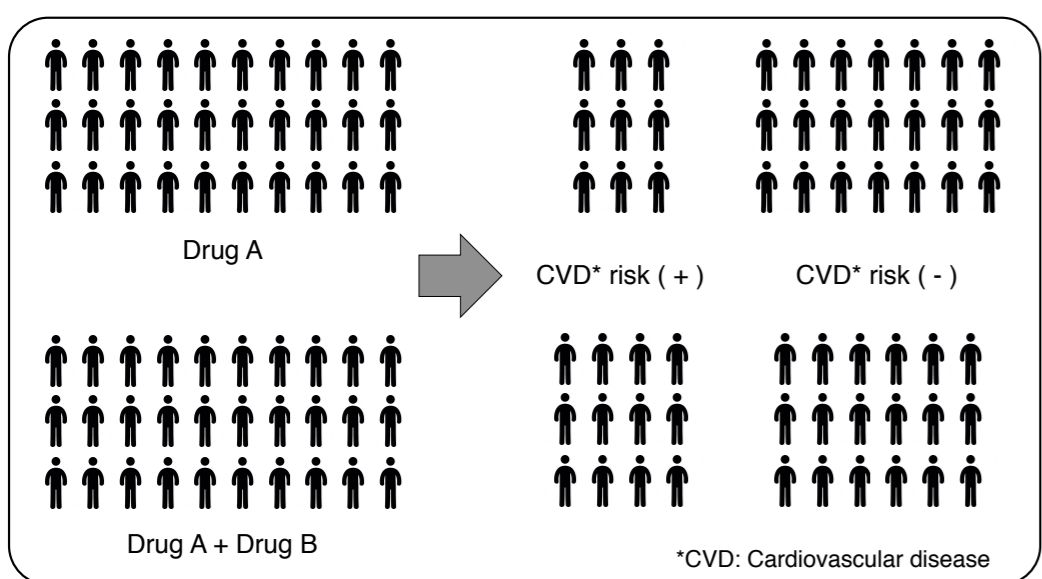
### この薬はどのくらいの投与量で効くの？



### この薬の作用メカニズムは？

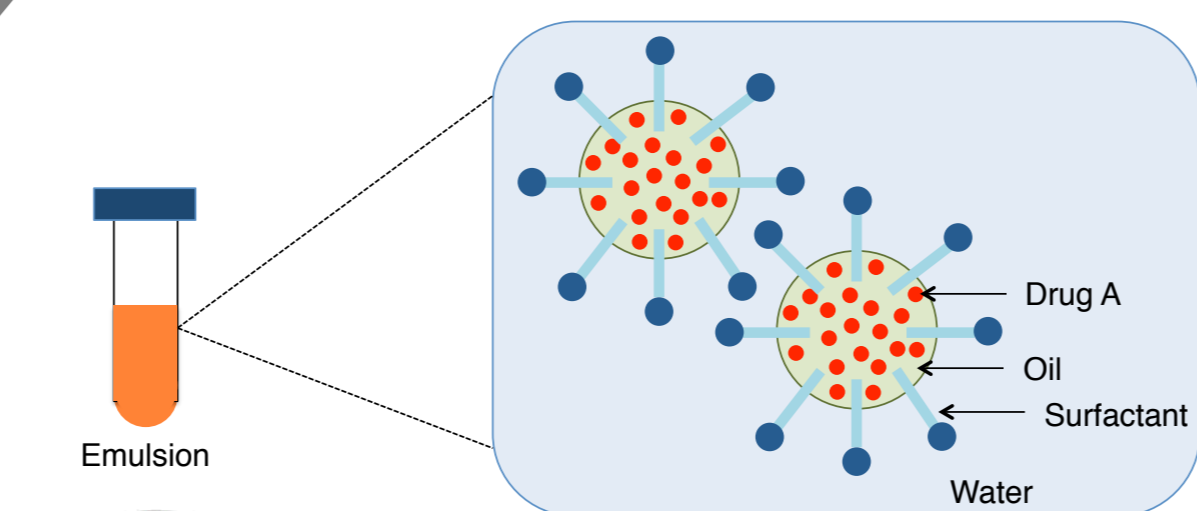
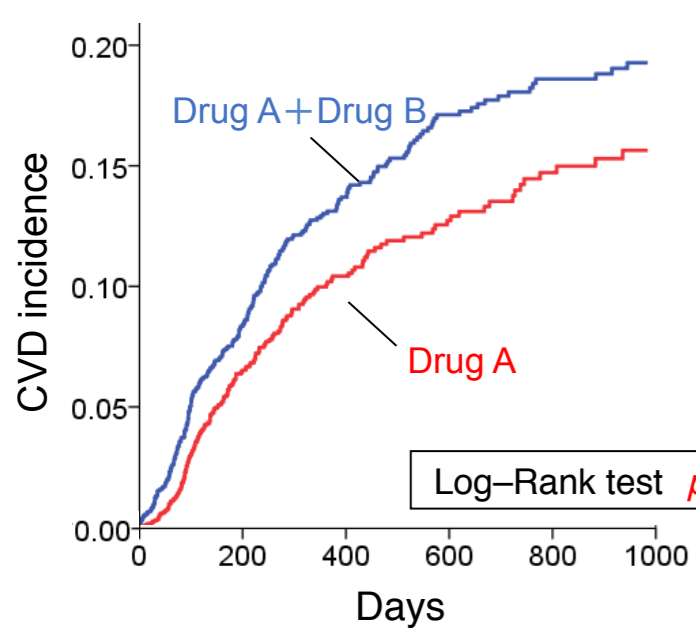


### この薬を使うリスクとベネフィットは？



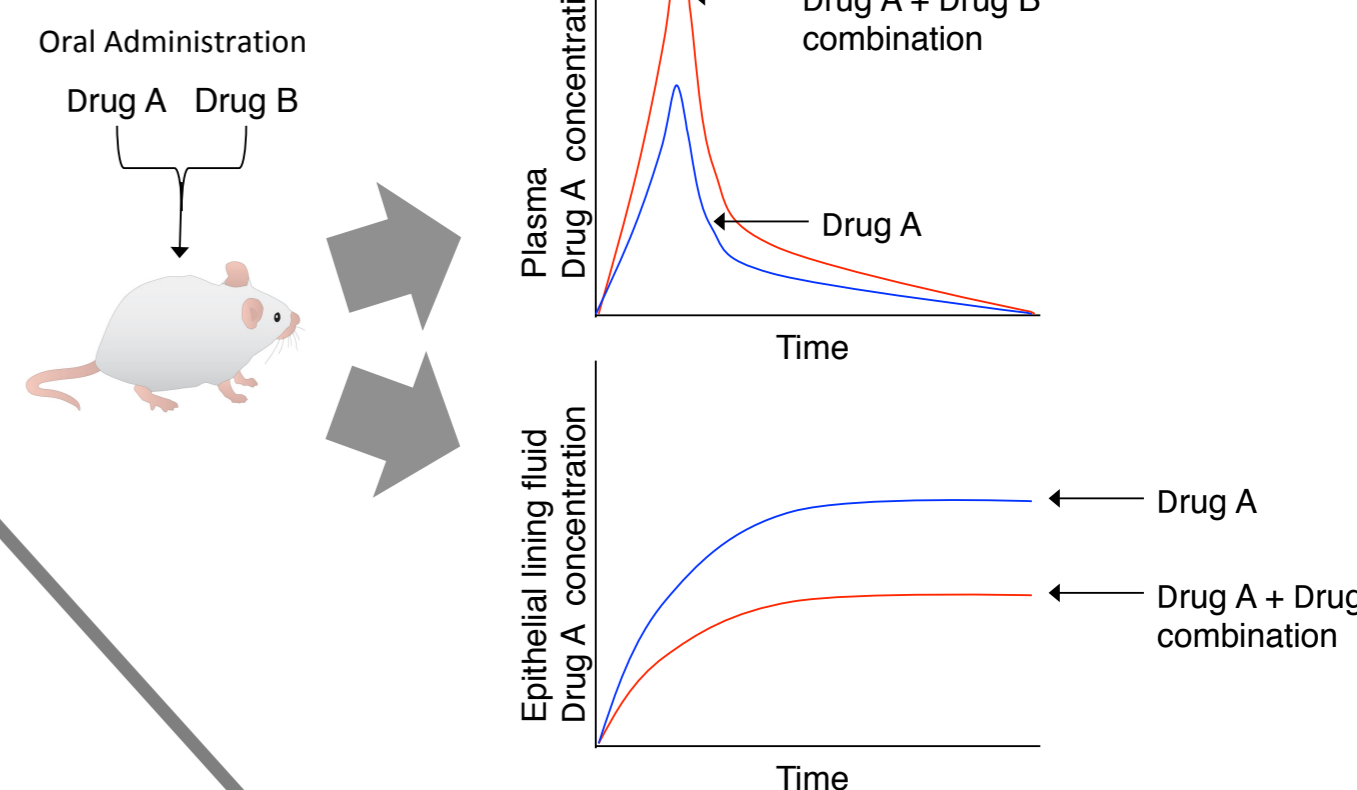
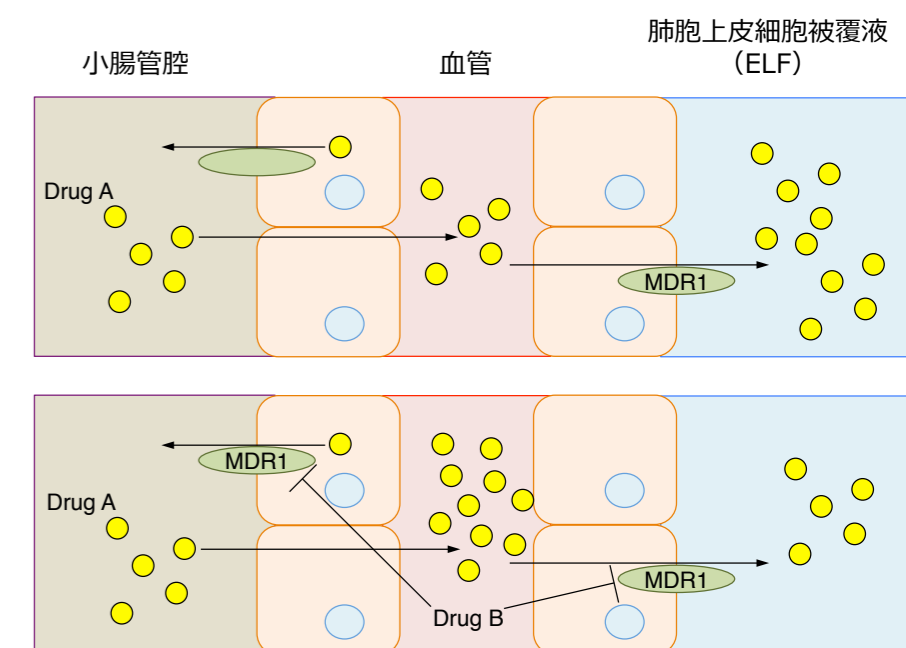
	n	CVD incidence	Hazard ratio (95%CI)	P value	Adjusted hazard ratio (95%CI)	P value
Drug A	1,837	183	1		1	
Drug A + Drug B	1,292	206	1.53 (1.26-1.87)	0.000*	1.47 (1.20-1.79)	0.000*
Drug A + Drug C	97	12	1.24 (0.69-2.22)	0.477	1.29 (0.71-2.32)	0.401
Drug A + Drug D	53	7	1.28 (0.60-2.73)	0.516	1.15 (0.54-2.46)	0.711
Drug A + Drug E	22	2	1.06 (0.26-4.27)	0.937	1.17 (0.29-4.75)	0.829
Drug A + Drug F	31	4	1.49 (0.55-4.00)	0.433	1.56 (0.57-4.21)	0.386

\*p<0.05



### この薬の剤型を変えるには？

### この薬を投与した後の体内濃度は？



## 現在進行中の研究テーマ

### <製剤の開発>

- 胃腸障害軽減を目的としたアスピリンパッチの開発研究
- 尋常性ざ瘡に対するスピロラクトンゲルの効果に関する研究
- 慢性裂肛に対する芍薬甘草湯クリームの開発
- リファンピシンの経口液剤の開発

### <相互作用>

- 肺MAC症治療におけるクラリスロマイシンとキノロン系抗菌薬の相互作用に関する研究
- NaSSAによる抗血小板作用と低用量アスピリンとの相互作用に関する検討
- 注射薬が吸着しない新規輸液ラインの開発
- インスリンの吸着からの検討—

### <データベース研究>

- アスピリンの抗血小板作用に及ぼすNSAIDsの影響に関する研究
- 低用量アスピリンとCa拮抗薬併用または出血リスク変化の検討
- 抗凝固薬と胃酸分泌抑制薬の併用による消化器系副作用の低減効果の有無に関する研究
- 抗凝固薬の適正量と服薬アドヒアランスに関する研究
- 経口抗がん薬治療における重篤な有害事象 (SAE) の発生状況及び薬剤師の介入効果に関する研究

### <ドラッグリポジショニング>

- シスプラチン/カフェイン併用化学療法 of TNBC への応用研究
- シスプラチン/カフェイン併用化学療法におけるカフェイン低感受性肝細胞がん細胞株の耐性メカニズムの解明